

## ネウストプニー先生の継承

〈ネウストプニー先生と本学会〉

イルジー・バーツラフ・ネウストプニー先生は、2013年10月、満80歳の誕生日をお迎えになりました。また同年、旭日中綬章を受章されました。先生は本学会の前身である「日本言語政策研究会」の設立当初から副会長を務められ、本学会の発展に理事として、また理論的支柱として多大の貢献をなさいました。『言語政策』第10号を記念して、先生の創唱された「言語管理理論」について、ここにその史的な意義を総括し、発展・継承をこころぎすイジー・ネクヴァピル氏の論文の翻訳を掲載いたします。(学会誌編集委員会)

〈本論文について〉

J.V. ネウストプニー氏は多方面に足跡を残しているが、言語政策研究に関する最大の貢献が「言語管理理論」の提唱であることは疑いない。そのエッセンスは2000年4月22日に桜美林大学で行われた第1回日本言語政策研究発表会での課題講演「21世紀に向けての言語政策の理論と実践」(田中慎也・木村哲也・宮崎里司編著(2009)『移民時代の言語教育—言語政策のフロンティア(1)』ココ出版、212-236所収)で読むことができる。本稿は、言語管理理論のその後の発展をふまえてその特徴を明確にするとともに、研究史のなかに位置づけてその射程を検討する、いわば綱領的な論文である。言語問題を包括的にとらえようとするネウストプニー氏の、言語政策研究における理論的貢献を端的に提示するものといえよう。なお、この翻訳は、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 GCOE 特別セミナー(2011年3月4日)において行われたネクヴァピル氏の講演の、同大学院の研究誌『メディア・コミュニケーション研究』63号(2012)、5-21ページに掲載された英語原文をもとに、「海外主要都市における日本語人の言語行動」共同研究プロジェクト(代表:平高史也、共同研究者:岩本綾、王雪萍、木村護郎クリストフ、島田徳子、福田えり、福田牧子、古谷知之)において作成された下訳に木村が手を加えたものである。同プロジェクトについては <http://gengoshiyou.blogspot.jp/> 参照。(木村護郎クリストフ)